

令和3年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議の議事概要

日時 令和3年8月20日（金）14：30～15：20

場所 テレワークセンター徳島（徳島市南島田）内

「とくしまスマートライフショーケース」 （Web会議）

出席委員（5名）

副会長	米澤 和美	徳島県社会保険労務士会顧問
委員	川原 雅好	株式会社エル・イズ・ビー
委員	角 香里	特定非営利活動法人チルドリン徳島（清瀬委員代理）
委員	佐々木 雅信	徳島県中小企業家同好会事務局長
委員	田澤 由利	株式会社テレワークマネジメント代表取締役

※猪子会長、竹内委員、葛籠委員は欠席。

●概要

委員

・議事次第に基づき、令和3年度の取組みについての説明を、事務局からお願いします。

徳島県

（説明）

委員

・続いて、国のテレワークに関する施策の動向や、今後のテレワーク推進に向けた課題などについて御紹介いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

・例えば、今まででしたら、パワーポイントで画面を共有して話をさせていただいているんですが、最近オンラインが多くなって、実際にいるのに近い形にして、お伝えしたいことをちゃんとお伝えできるようにするというのがすごく重要なことだと思っております、私もいろいろな工夫をしている中で、こういう形（Zoomで説明者の背景にスライドを表示：ピクチャーインピクチャー機能）も一つありだなと思っているところなんで、今日はこれでやりたいと思います。Zoomの機能なので、普通に誰でもできちゃうんですが、アニメーションが今のところ使えないので、寂しいところではあるんですけども、こういう形になると、そこにいるような臨場感が出てくると思うので。お話しします。

・何回かお見せしているかと思うんですけども、テレワークっていうのがいろんなことに影響して、課題解決しますよという図で、新型コロナがやっぱり一番目の前にあるので、その対策をしなきゃいけない。

・先ほどの資料を見せていただいた中で、「時間や場所にとらわれないテレワーク」という表現がありましたけど、決して間違っていないんですけども、「時間や場所にとらわれない」って言うと、企業にとっても「残業代払わなくていい」とか、働く人は「いつまでも、夜中まで働かされちゃう」とかいうイメージがあるので、一応国の定義に合わせております（委員の資料の中では「時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方 テレワーク」）。

・その理由というのが、「リモートワーク」という言葉と「テレワーク」一緒だって言われがちですけども、「時間」という概念はリモートワークにはないですから、場所だけじゃなくて、ちゃんと「時間」というのを定義に入れているということ。あと、「有効活用」の中に「企業の生産性」や、働く人にとっての時間を作る「ワークライフバランス」、そしてもう一つ今言いましたように、「自由ではない」ということです。自由だと、やはりそれって「雇用」じゃなくなっちゃうわけです。

・令和2年度の「通信利用動向調査」。令和3年度の5月末くらいに出てきたもので、コロナに入って初めてのがここですね（グラフの令和2年データ）。で、コロナ前がこの状況（令和元年データ）で、明らかにものすごく増えている。「倍増」という言葉が適切ではないかと思っています。

・産業別でも特徴的で、これまではこんな感じ（産業別テレワークの導入状況グラフ下段：令和元年データ）で、情報通信業が中心だったんですけども、ほかの業種ですね、徳島県内にもこういった業種たくさんあると思うんですけども、そういったところもテレワークの実施が非常に伸びている。

・新しいところで言いますと、総務省における「『ポストコロナ』時代におけるテレワークの在り方検討タスクフォース」というのが開催されまして、このタスクフォースの構成員の中に私も入れていただいているところなんですけれども、ここで検討したことは、『目指すべき日本型テレワーク』ってどうなんだ」と。欧米のまねをするんじゃなくて、日本の課題解決に寄与するテレワークに、もう少しちゃんと取り組んでいかなければいけないんじゃないかと。単に「どこでもできるからいいよね」という世界に行かないで、やっぱり社会解決できるようにすべきであるってということと、ICTのツールをちゃんと作っていかうということ。それから、ソーシャルセッションもちゃんと重視していかうということと、世代間ギャップをどうやって埋めていくか。そして働く人も企業も、ウェルビーイング。すごい幸せじゃなくていいから、ちゃんと幸せが持続できて、ハッピーな人生を送れる、ハッピーな会社になれるっていうあたり。私は検討構成員として入ってましたけれども、非常にいい会議でございました。資料とかも出てますので、御覧ください。

・東京商工リサーチが、新型コロナウイルスが始まってからアンケートを取っている中で、よく出るデータなんですけど、去年の初めはみんなガーンとやった。それで解除されて落ちた。落ちた後、微妙に増えてるんですよ。統計学的には大した伸びじゃないんですけど

れども、これだけ何回もやっても伸びてるっていうことは、「伸びてる」っていうこと。

・この人たち（現在もテレワーク実施中の企業）は多分今後もやっていくと思うんです。そうじゃない人たちが、今この緊急時にいかにやっていただくかということが、ものすごい大事だと、私は思っております。それは将来じゃなくて、この1週間、この1か月、どうやってテレワークするかっていうことを、もっともっと言わなきゃいけない。

・菅総理もこの間、経団連に向けて、「お盆明けからテレワークやってください」と。でも、テレワークしない人たちが「テレワークしましょう」って言っても、響かないところには響かないんじゃないかなと思っております。徳島県さんも中小企業多いと思いますので、「声がかげられないから業務が回らないよね」、「仕事ぶりが分からないからサボってる人いるよね」、実際ネットなんかでサボってる人いっぱいいるわけですよ。そんなの見たらみんな不安になりますよね。「大切な情報が漏れたら大変だ」という現実的な問題が目の前にあるのに、上の方で「5割やりましょう」とか「7割やりましょう」みたいなことを言っている、おそらく日本の9割以上を占める中小企業はなかなか動かないだろう、ということで、私的にはずいぶん前から言っていることなんですけれども、もう課題を解決していくしかない。課題はさっき言ったようなことなんです、声がかげられない」とか。

・声をかけるにはどうしたらいいかって言うと、せっかく Web 会議ツール使ってるんですから、Web 会議ツールをもうオフィスにしちゃってくださいと。Zoom でも Teams でも何でもいいですよ。それを、始業から終業まで、チームの5人なり10人なりが集まって、カメラ全部つけなくていいから、そこにいて、いざとなったらすぐ答えられる、声をかけられる状況を作れば、今の皆さんの状況は一つ解決できますよ、みたいな答えを出していく必要があるなと思っております。この話をすると、「うちはみんな Zoom を使ってるんだけど、有料じゃなくて無料だから40分で切れるんです。そんな長い間できません」と言うことがあったので、じゃあ、ということで、私が探してきたのが、この「Around」というツールです。あまりまだ知られていないんですが、かなりいいです。アメリカなんかでは「Zoom に変わる」と言われてるぐらいで。ただ、日本語化されていないので日本の人はあまり使ってないです。でもすごく機能はよくて、しかも、今のところ全部無料です。ですから24時間付けっぱなしでも大丈夫ということで、紹介をしております。

・もう一つマネジメントの問題で、さっきの「自由だったらいけない」という話を紹介しておきます。これ全部持論ですから、とりあえず参考に。国の話はさっきやったところですが。でもあの国の話はここに繋がると私は思ってるんですね。つまり、日本の課題って、これから人口減少ですよ。県もそうだと思うんですけども。人口減少して、若い人たちがどれだけ働けるようになるか、あるいは子育てとか、高齢者も働けるようになるかってことを考えると、とにかく社員が安心して、発揮できる環境、仕事できる環境、柔軟に働ける環境っていうのを作っていかなきゃいけないということになったときに、この【A】が今までの働き方です。羊さんに鎖を付けて飼う、というやり方。つまり「会社に

来て、この時間、ここでやりなさい。そうすると安心だよ。」ということだったんですよ。それを、今テレワークだから、突然【C】に来てるんです。羊を自由に、もう野原に出しましょうと。「みんな自立しなさい」となって、ここにジョブ型雇用とか成果主義とかいう話が出てきているんですが、これ絶対危ないんですよ。オオカミさん狙ってる。オオカミさんが狙ってても自分で頑張れる羊さんもいるんですけども、ほとんどの羊さんはオオカミさんに食べられちゃう。あるいは、サボっちゃったり、あるいは働き過ぎて体とか心を壊しちゃったりする中で、これからの時代若い人たちがどんな環境で働きたいかっていうと、私はこの【B】だと思っています。つまり、柵がある。安心できて働ける場所。でも柔軟性がある。そういうものを目指していくためには、マネジメントっていうのは絶対重要で、成果さえ上げればいいんですよっていうのは、逆に中小企業さんがそこに走ってしまうと、人がいなくなってしまうという悲しい数年後が待っているんじゃないかと思っています。

・ 3つめのセキュリティに関しては、私は鍵のかけ方だと思っているので、鍵のかけ方とか鍵の値段も、南京錠から、超システムまでいっぱいある中で、まず中小企業さん、お金かけたくないって方におすすめているのがこちら「シン・テレワークシステム」。NTTとIPAさんですから安心ですよ。このシステムは、とりあえず今無料開放中です。ですから、とにかく使ってみてください。パソコンを社員に持って帰らせるなんていう危険を冒していたり、危険だからやらないっていう企業には、この無料で安心してできる、実績のあるシステムを使ってください。そんなに難しくないです。という話をしまして、その具体的なインストールの方法とか、今の話をYouTubeで出しています。あと記事でも書いてますので、徳島県の中小企業さんにセミナーとかされる際、御参考にさせていただければと思います。これは「3年かけてやってください」っていうテレワークじゃなくて、この10日間、この1か月、これさえ見ていただいたらもうすぐできますから。誰かシステムの担当がいれば。そこでやってみて、できると思ったらじっくり取りかかっていたく、という提案でございます。

・ あと、ハイブリッドでセミナーを開催するって言っても、(Web会議の会場が) どういう状態かも私はわかりませんし、何人そこにいらっしゃるかもわかりませんし、交代交代に出てこられるようなのだと、やっぱり現地にいる人とテレワークの人と違うんですよ。現地にいる人もテレワークの人も同じような形で、どっちに行っても同じことが見える、同じような話ができる、発言権があるみたいなことを、やっぱり作っていかないといけないなと思っていて、これは別のところでやってたんですが、カメラをここ(聴衆の後ろ側)に置くだけで、全然違って来るわけですね。このカメラを見て話しているだけで、オンラインにいる人も自分の方を見て話してくれていると感じる。逆に、(聴衆の)後ろ側にスライドをおいて、そこにオンラインの聴衆が並んでいたら、講師の人も両方に同じように話しかけることができる。そういう工夫が、今後できていくといいなと思っております。以上、国の方向性と私の意見を述べさせていただきました。

委員

・ありがとうございました。国のタスクフォースも今、これからの日本型のテレワークっていうのを国の方で模索しているということで、いつも委員の方から新しい発見というか、今の時代に合った提案をいただいて、本当にありがたいなと思っているところです。

・続きまして、意見交換に進みたいと思います。日本全国、急速にコロナウイルス感染拡大ということで、委員から「この10日間、この1か月、テレワークを進めてください」というお話があって、本当に今、進めなきゃいけないっていう状況だと思うんですけども、それではこのテレワークを推進するためにはどうすればいいか、それから、そのために必要な支援等、今のお話の中でのもう少し突っ込んだ御質問でもいいし、ほかに御提案がありましたら、お願いしたいと思うんですが、どなたからでも構いません。特に今、中小企業でテレワークって言われても困ると思うんですが、ただ私のお客さんでもそうなんですけれど、濃厚接触者であったりとか、濃厚接触者でなくてもちょっと待機が必要なんじゃないかなという方が増えている中で、そういう意味でテレワークが必要な方も増えてると思うんですけど、いかがでしょうか。

委員

・今、テレワークを改めて進めなければいけない状況かなと思いました。先ほどの資料にもありましたように、商工リサーチさんと同じような感じで、徳島もテレワークの利用率というのが推移してきているように思うんですね。昨年の今頃はドーっとテレワークをやってきました。しかし、少し落ち着いてきて、やはりテレワークを一生懸命やるっていうのもちょっと無理があるなあとというような感じ。それで一気に落ちてきたというか、現状のできる範囲のことに合わせていったという感じかなあとと思いました。

・中小企業はIT化というところで業務の効率化をやっていく、情報の共有化を進めていくということに、ようやくやってきた感じかなあとと思います。ですから、徳島で今改めてテレワークとして何ができるのか、それから仕事の細分化みたいなのところからやっていくような状況かなあとと思いました。「シン・テレワークシステム」など、僕も知らなかったんですけど、会員さんには、やっぱり何をしたいのか、それから料金はどうなんだというようなところが、導入部分でのネックになっているところというのは多々あると思いますので、今日お話しいただいたような情報を会員さんに発信したり、それからまた、徳島県さんでテレワークに関するようなセミナーなんか御案内いただけましたら、そういったものもどんどんと発信していきたいなあと考えております。以上です。

委員

・ありがとうございます。情報が、特に中小企業にはなかなか行き届かないところがあるので、いろんな経済団体さんたちに御協力いただくのは本当に必要なことだろうなと思います。必要な情報を必要な方に届ける、これはなかなかできないことだなとは思っています。ありがとうございました。続きまして、いかがでしょうか。

委員

・私自身は IT 企業勤めなので、去年と今年も変わらず、ほぼテレワークで、アルバイトの学生とかがいるので、リモートワークが出来ないメンバーがいるので、週1で交代でオフィスに出て行く感じがずっと続いているので、あまり自分自身の働き方に関しては変わりはないところです。

委員

・委員は、ずっとテレワークで寂しくはないですか。

委員

・大丈夫ですね。もう慣れているというか、長いことテレワークメインなので、ずっとテレワークで気が滅入るとかそんなことは全くなく、でもやっぱり大変なのは子どもが家に居るときとかですね。夏休みだとか、もしかしたら、また学校が休校になったりとかあるかもしれないですけども、そういった時に、お迎えの時間だけちょっと抜けれるとか、柔軟な時間の使い方が出来るっていうのがやっぱりすごくありがたい。そこは一番助かる場所ですかね。

・あと、さっき「とくしまテレワーク講座」のチラシの中で、家でできるエクササイズみたいなのが出たので、今年に入ってロードバイク買って、自転車乗って運動するっていうのを始めたんですけど、最近ずっと雨で全く身体を動かせてないので、エクササイズとか気軽にできるといいな、と思いました。

委員

・ありがとうございます。時間を有効に使えるっていう点で本当に良いし、テレワークしながらこういう講座も活用していることで、本当に良い取組だろうなと思っております。それでは次に、いかがでしょうか。日々テレワークセンターの方でも活動している中で、いろんな声であるとか、壁っていうのもあるかなと思うんですけど、これまでの取組とか、今こうしたらこういいというような御意見があればよろしく願いいたします。

委員

・私の方で、企業へのテレワークの推進をさせていただいておまして、以前から皆様のいろんな御意見を頂戴している中で、今日参加させていただいて改めて思いましたのが、テレワークを推進する時に、地方ですので、スモールスタートでできるところから、できる範囲でまずやってみようということは、常々申し上げてはいくんですけども、ただ、私の中で迷っているところが。例えばオンライン会議のシステムだけをまず取り入れて、コロナ禍の応急処置としてやっていくということと、あと、きちんと会社の今後の新しい働き方の選択肢として設けるということで、きちんとした制度、体制を持って、テレワーク、働き方を整えていこうということ。しかし、今すぐ始めましょう、それにはこうやるんですよということを、テレワークセンターで申し上げていかなきゃいけないなと改めて思いました。

・最近ですと、講演の御相談も頂く中で、業務の棚卸しのノウハウ支援ができるという話をするとよく、それをうちでも教えてほしいと言われることがあるんですね。テレワークを導入する時に、業務と制度とルールの部分と、意識の改革や環境を整えるというポイントが5つありますよというお話をするんですけども、まずイメージがしやすいこととして、自分たちの直結する働き方とか毎日の業務に関わるところから参画をしてもらいたい。できる業務とか成果が見込める業務、緊急時でもやらなきゃいけない業務というのを取り上げて、それを集中的に考えていきましょうという話をするんですね。

・これは一つ、一番簡単なやり方なんですけども、社員の方に、御自身のやっておられる業務をこれくらいの単位で書き出していただく。そして今すぐテレワークでできそうなものを赤色で書いてもらって、何か（ツールなどが）あればできそうなものを青色で書いていただく。管理職の方とか、トップの方なんかは、テレワークってうちではできそうにないと思っておられても、意外と社員の方は自分でこの仕事なら出来るって分かってたりします。こうやって見ていただきますと、火曜日は出なくていいかな、水曜日でも昼から帰ってお家で出来るんじゃないかなとか、金曜日にやっている仕事を水曜日と入れ替えたら、水曜を交代でテレワークの試行導入する日に当てれるんじゃないかなというのを、スケジュールをチームで組む時に、見て操作しやすいということで、お伝えしているものです。

・ただ、このやり方では、まだなかなかうまくいかないようなところもあって、もう一つなんですけれども、これは仕事を大項目から中項目まで並べていただいて、在宅やモバイルワークでできる、できないに○とか×を。同じ仕事でも、この人はできると思ってるけど、この人はできないと思っているなら、できる方からノウハウとかアイデアを共有していただければ、できるようになっていく。あと、この比率って書いてあるところに、仕事に対してどれだけ負荷をかけてるかっていうのを、自分の考えとして出していただくと、テレワークと関係ないところでも、この子がこの仕事にこんなに負荷をかけていることが妥当なのかということを見て、業務を分けていく基準に使ってもらえたりもしています。また、その業務に対して何を使っているかというのを書いてもらうと、実際その業務をテレワークでするために必要な機器とか、社内の業務の分担やコミュニケーションの部分が分かり、この工夫改善のところに書いていただけます。

・ここの会社の場合は、業務を全部テレワーク化しようというのを目的にはしていません。BCP 対策として、基幹業務を今のような非常時に、この仕事だけは絶対っていうのを見つけて出すというような使い方。これも会社様と、どのレベルのものとか、何を中心に引っ張ってきたら良いとか、色々とお話をしながら作っています。例えば、どうしてもやっておきたい業務は何か。それに対して必要なもの、ツールとか環境とかを出し、まず必要最小限なものでスタートできるというのを感じていただけています。

・今すぐやろうっていう時には、さっき委員に教えていただいたような新しいツールなどの公開ももちろんしていきたいと思います。

・ルールのところも、緊急時なので、シンプルにこれだけはやりましょう。例えば、就業の連絡も、個人バラバラにさせるんじゃなくて、このテンプレートですぐできるようにしましょうというようなものをすぐ渡せるようにしています。

・こんなのがあったらとりあえず管理できるとか、そういうコンテンツを出して、「できるよね」とイメージしていただくような活動も、下半期からやったらどうかと、今ちょっと思うようになりました。応急処置的なことですので、これでやってみて小さい成功事例が出てきたら、先々に向けて人材の確保とか、もうちょっと組み立てていくことも今ぼんやりとっております。後で事例集もお見せできたらなと思います。以上です。

委員

・私から質問なんですけど、先ほど徳島県さんからの御紹介で、これまで115社のテレワーク導入支援をされてきたという話があったときに、その115社はこのコロナ禍でどうされているかというような情報、統計とがございましたら。あったらすごいなと思っ

ているんですけど。コロナ前に我々もコンサルでお手伝いした所は、コロナですごく感謝されているわけですね。そういう事例が地域から出てこなきゃいけない。徳島県さんはコロナ前からこういった支援を地域でされてたっていう意味で、その115社が今現状どれぐらいテレワークをやっていて、このコロナ禍に活きたかなんてというのが両方あると、ものすごく良いなと思って。まずそれが質問でございます。

・今お話しいただいたみたいに、応急処置的なものと、それから本当に本気で導入するテレワークというのを考えていかないと、今のこの状況下では、やっぱりテレワーク導入には半年から1年はかかりますよねなんて言っていると、目の前で社員が感染してることになってしまいますので。ただ、将来やりたくなる、制度化したくなるような応急処置であるべきだと思っているんですね。つまりその応急処置は、とにかくすぐに無料でできる。そのやり方ならできるかもと思う。昨年（テレワーク導入が）下がった企業は、できないと思ったから下がってるわけで、そのできないと思って下がった人たちができるんじゃないかなと感じてもらうためにはどうすればいいかって発想です。

・我々も実は、今おっしゃったような業務の見直しとか棚卸し、業務の設計のし直しというのはすごい重要だと思うんですが、結構時間がかかるんですね。ですから、さっきの表を見てても分かるように、解決策って、リモートアクセスとWeb会議、あとはチャットツールみたいな、要は結構解決策がそこにもうだいたい見えているわけですね。さっきの話に戻ると、結局業務の棚卸しの時間がなければ、今のままで良いですから、今会社でやっていることをそのまま家に居て、安全にできて、会社に居るように声をかけられて、会社に居るように皆がいるからさぼれない、あるいは残業しにくいみたいな環境を作る、っていう応急処置の方向に向いて欲しいなと。自分も最近それを思うようになりました。無料で明日からでもできますよと。メール1本出したらすぐにトライアル始められますよ的なところを、是非徳島県さんも一緒に。二段階で全然良いですから。まずはこれ。でもその向こう側にこれがあるけれども、ここからスタートして向こうに進みましょうみたい

なのと一緒にできると良いなと思いました。

委員

・ありがとうございます。徳島県さんデータとかございますでしょうか。

徳島県

・残念ながら今、115社のうち現在も続けているところが何社あるという、そこまでの状況は把握しておりません。すみません。やはり今後必要になることかなと思います。

委員

・全然把握されてなくてもかまいません。逆に言えば、それって他の自治体さんって持ってなかったりするわけですね。ですからそのデータを、今からでもアンケートすれば出てくると思うので、それが徳島県さんが今までやってきたことの効果として発信できる材料になるんじゃないかなと思った次第です。

徳島県

・アンケートにつきましては、テレワークセンター徳島で実施。去年も今年もなんですけど、取り組んでいる状況とかをアンケートさせていただいて、その中の声を踏まえまして、テレワークセンター徳島で今度どういう所が足りてなくてどういう研修をしたら良いとか、そういうものを参考にするようにはさせていただいております。

委員

・ありがとうございます。これからの徳島県の取組みの一つにもなって良かったかなと思います。今言って頂いたように、このコロナでテレワークがこれだけ広がる前から、私たちが取り組んでいるので、是非ともこれが良い数値とかで見えるような形になれば良いかなと思います。

・もう少し深めていきたいなと思うんですけど、県としての取組みなので、県としてさらにこういう形で支援をできれば、もう少しテレワークへの取組みが進むのではないかなって御意見等ございましたら。

・いろんなツールであるとかソフトの情報が、なかなかそれに詳しくない人たちには分からないというのが現状だと思うので、テレワークセンターさんも取り組んでいるとは思いますが、なかなかそこが周知しきれないということが悩みでもあるのかなと思いますけれど、何かこんなことをすればもうちょっと取組みが進むんじゃないかなってところが、御意見があればお願いしたいんですけど。いかがでしょうか。

委員

・なかなかやっぱり皆さん情報知らないですね。当然ながら格差はあります。やらざるを得ないなというところは早くから取り組んでまして、その利便性なんかもよく伝

えてはいただけるんですが、なんせ実際にやってみないと進まない。例えば業務の棚卸しもそうだよなと。それから今の仕事を持ち帰ってやってみるといふようなところも、頭の中では分かるんですけど、実際無理矢理やってみないと課題が見えてこないなというのが自分自身も含めて実感しているところです。

・徳島の（企業の）今の実態を、仕事に、業務に活用するような、テレワークにつながるような、そういう訴えかけをしていく必要があるなと感じました。ちょっと抽象的な話になりましたけど。

委員

・多分おっしゃるように、やってみるとそうでもないのかなっていうところもあるかと思うんですけど、もう少しこのテレワークセンターとかを活用していただくような方法ってないかなって常々思う所なんですけれど。いかがでしょうか。じゃあ県の方からお願い致します。

徳島県

・先ほどの資料の中で産業別テレワークの導入状況というのがございまして、元年度に比べると2年度にすごく伸びているという中に、建設業とか製造業とかそういうところが倍以上に伸びているというのがありまして、こういう業種って、どういう仕事をテレワークにしていったらいいのかなってというのは、事業主の方とかはなかなか難しいなと思うところではあると思うんです。先ほど、やっている業務を整理して行って、その中でテレワークができるできないというのを埋めていくというようなお話もあったんですけども、建設業とか製造業では、どういう業務をテレワークに変えていったのかというのを、取組み事例というようなことで御紹介いただけるようなものがあれば。

・徳島県は製造業が多いのですが、同じような職種の方だったら「うちもこういうことができるのかな」という意識付けというか、「これだったら取り組める」といふような気持ちになるかなとも思うんです。事例集を今度夏に刊行するんですけども、もし建設業とか製造業とかでどういう業務をテレワークにしていったといふような、そういう事例を御存じであれば、教えていただけたらなと思うんですけどもいかがでしょうか。

委員

・ありがとうございます。どういう業種業態が、あるいはどういう職種がテレワークしやすいですか、すごくよく聞かれる質問で、みなさんやっぱり頭にそれがあるんですよ。業種でここはやりやすいやりにくい、一度それを取っ払ってみたいといふのが、私のいつもの答えなんです。

・当然、IT 業界はやりやすそうに思えますよね。でもそれは、IT という業種だからではなくて、IT 化されているからなんです。IT 企業はもともと、パソコンだったりデジタル化だったりですね。ですからテレワークしやすいっていふのは、ハードルが低いという言

い方をすると、すでにもう IT 化されているということと、デジタル化されているということですね。そのことがまずすごく重要だし、あとは必要性ですね。

・昔は必要性が高いのは女性の方が多いところと言っていたんですけど、今コロナというのがあるんで、それは結構なくなっていて、あとはっきり残るのはトップがどう考えているのかってだけだと思ってるんですよ。トップがやると言ったら何だってできるんですね。

・例えば IT を使った、パソコンを使った業務なんて製造業ゼロですか？そんなわけはないですね。絶対あるんですよ。あるんですけども、製造業だからという理由だけでも全部、この会社はしにくいついていう風にやってしまう。たまたま IT 企業さんは IT 化されて、デジタル化されていただけのことだと思っています。

・だからどんな業種でもできる。それは工場と、営業や管理部門とでは割合がちがいますが、やれるところは必ずある。まずここからやってくださいというと、やりたくない社長さんはそれは不公平だと言うんですね。それはそれで逆に言うとおかしな考え方になるわけです。不公平だからやらないなんて言っていたら、社員皆やめちゃいますよっていう風に私は思います。

・最近出している事例としては、これは極端事例ですけども、極端な方がわかってもらいやすいかなっていうのでよく紹介しているんですが、(事例1) 地方の小さな木のおもちや作り工場さんですね。コロナ禍で在宅勤務をしたんですよ。どうやってやったかという、これは特殊だったんですが、家から家へとリレーでやったわけですね。やろうと思えばいろんなやり方があるはずなんですよ。それを最初からうちは工場だからできないって言ってやめちゃったらゼロになっちゃうわけですね。コロナで自宅待機になっちゃうということだと思ってますし。

・(事例2) 訪問看護なんて絶対にできないと普通は思うんですけども。訪問看護というのはだいたい病院に行って朝礼やって、それから訪問した後病院に戻ってきてっていう流れだったのが、今回のコロナ禍での感染リスクが怖いからといってもう止めたわけですね。病院に行くのを。家で朝礼をやって直行して直帰して家でデータ入力をするという形に無理に変えたら、これもテレワークなわけですね。看護はテレワークできないですけども感染リスクは病院にとっても看護で回る人達にとっても避けることができるという発想。そういう風に、うちでどうやったらできるかと考えない限りは、どんな何業であってもだめだと私は思っています。

・(事例3) これは加工会社さんで、ここにある工場はコロナ前ぐらいにすごい力をいれてやり始めたわけですね。もともとペーパーレスで営業と管理できるところだけ進めてたんですよ。ところがコロナになって、不公平だよなって話がやっぱり出てくる中でどうしたかっていうのがちょっと面白いなと思って、御紹介しておきます。工場勤務者は、通常8時間勤務なのに1日10時間勤務にしたんです。すると4日間で8時間プラスになるの

で、週休3日ができるようになる。どうしてもテレワークができないんだったら、テレワークができない代わりのやり方、働き方改革を実施することによって、工場の人達は週休3日になり、営業と管理系の方はテレワークになり、非常に密を避けることができたという事例ですね。ですから、できないと思った瞬間に多分できなくなる。すごい重要なことは、この会社、新しく1日10時間、週休3日間でなんとか回さないと、ということで、業務の棚卸しをしたわけですよ。そうしたら生産性が上がっちゃったと、そういう話があります。こういうことをちゃんと伝えていってあげると良いのかなと。

・(事例4) これも極端な事例ではあるんですが、さっき私 Web 会議でずっと繋いでいたら良いと言ってましたよね。バーナーを使った溶接作業を家でやっているんですけども、一人でやっていたらやり方を間違えてもいけないし、ということで、ずっと Web 会議で繋げていたわけです、工場と。そうすることによって、とてもできないような作業も、もしかしたら在宅でできるんじゃないかなみたいなことを、ぜひぜひ徳島県の企業さんにも、事例として。これはこのままではできないけども、こういう話を聞いたらちょっとこう考えてみようかなって、なったださる事が今一番重要なんじゃないかなと思っております。

委員

・良い事例をありがとうございました。次よろしくお願いします。

委員

・先ほどの115社の件の話なんですけど、今まで情報提供させていただいたり、御支援して導入されている会社に全く当たっていないわけではなくてですね。やはり(導入の)範囲を広げるとか(支援を)続けさせていただいているところもあるんです。

・さっきの製造業とか建設業の事例なんかでも、例えば建設業さんとかだと、社員の女性の方が怪我をして車椅子になって、3ヶ月ぐらい車椅子で通勤していたんですけど、設計部門だったんで、これ家でできるんじゃないのかなという会社側の発想がありまして。その御本人も、入社するよりは家でできた方が良いんじゃないかなというところで、テレワークをその人から始めるというので、御支援させていただきました。さらにその続きで、会社で現場監督さんの過剰な長時間労働をなんとかしなきゃいけないということで。現場監督さんがいくつもの現場を掛け持って、よく似た感じの処理業務をかなりの量を持っていて、その人から引っ剥がそうと。それを誰がするかっていうと、本社にいる女性3人にサポートスタッフを任命しました。その人たちが、現場回っている人たちの仕事をリモートで取りに行き、やれるようにしたいんだと。そこをどうにかできないかということで御相談をいただいて、色々アドバイスとかマッチングとかしながら御支援しています。じゃあその会社が今どうなっているのという、採用の集団面接ももちろんリモートでやっていたり、色々広がっています。

・そういう事例がいくつかあるわけなんです。製造業ももちろん、今回の事例集でも入

っています。もしこれから後追いで「今もコロナをきっかけにさらにテレワークされていますか、どんなことをしていますか」と聞いても上がってくると思うので。

・私がお願いしたいこと、皆さんに御相談したいことは、センターから一生懸命発信をしてもやはりなかなかなので、ここにこんな情報がありますよって言う場が欲しいですね。さっきの徐々に微妙に増えているという話の続きなんですけども、一回やったけどやめた方、それからまだやりたいと思いつつもやれずにいる方、やらないと決めている方に向けて、具体名を挙げて「こういう身近な会社さんでこんな事例がありますよ」とお話をし、興味をもってもらおうとか。あと実際に課題になっているところ、デメリットと感じているところをひっくり返せば良いのかなと思うので、「こういう壁に当たった時はこういう風にしてクリアしているようですよ」とか、そういうのもいくつかありますので、そういうのをお話をさせていただくとかもできる。いろんなところで取り上げていただいたら、センターで持っているものをらせるかなと思いました。

・何がしたいかという、私もとにかく今会社を守る、社員を守る、お客様との約束を守るとかいうところで、テレワークを今こそ本当に取り組んでもらいたいと思う。なのでそういうきっかけを頂くと、動きが加速すると思っています。私たちの方でも今までの事例とかもきちっと整理していかないといけないし、機会を頂けたらなと思いました。

委員

・ありがとうございました。徳島県、テレワークセンターが素晴らしい取り組みをしているということ、なかなか私たちも、徳島県内にいても知る機会がない。今思うところなんですけど、オンラインの情報というはすごくあふれてまして、自分に必要な情報を取りに行かないとなかなか必要な情報がとれない。事例集もいろんな事例集が出ていて、必要な事例集がこれもまた必要な人に届かないというところで、とにかくできたら私たちも協力と言うか、例えばこういう会議の前に、もし動画とか作って YouTube に置いていただいたら、そこを紹介をする。こんな良い取り組みがありますよっていう、企業さんの了解を得ないといけないんですけど。そんな形で具体的に私たちにもできたら良いなと思っています。委員も何かできそうですかね。

委員

・ありがとうございます。提案すごい良いですね。今チャンスだと思っていますので、導入事例等に関しての勉強会など、どういう形でできるかも含めて検討していきたいと思っています。

委員

・ありがとうございます。お願いします。とにかく色々発信していくことが大事ですよ、おそらく。予定の時間は過ぎたんですが、他に何か御意見ございますでしょうか。

委員

・ 2月10日、働き方フォーラムという年度の集大成のイベントをさせていただくんです。自営型で在宅ワークをやっていこうという皆さん、先ほどの講座を受けられたその方々と企業様とが入っていただく企画なんですけれども、テレワーカーを雇用するとか、テレワーカーにお仕事を出したいという企業とのマッチングというのが午前中にあるんですが、午後から企業向けのものになっていまして。その後具体的にワークショップなんかもしようと企画しています。なのでまた皆様に協力を頂きたいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

委員

・ ありがとうございます。2月のフォーラムも楽しみにしています。それでは意見も今日の所はほぼ出尽くしたようですので事務局の方に進行をお返したいと思います。よろしくをお願いします。

徳島県

・ それでは各委員の皆様、貴重な御意見等ありがとうございます。本日頂きました御意見、御提案等につきましては、事務局におきまして協議をさせていただいて、この下半期また来年度当初予算等にも反映できるよう検討して参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。それでは、これをもちまして令和3年度テレワーク活用ネットワーク第1回会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。